

ハリケーンBERYLと今後の備え 続き

カテゴリ-3以上のハリケーンが来たら、あなたはど

先月カテゴリ-1のBERYLが襲来しただけで、緊急災害宣言が発令される事態となってしまったヒューストン。これからハリケーンのピークシーズンに突入するにあたり、万が一カテゴリ-3以上の大型ハリケーンが来たらいったいどうなるのか、と不安に感じた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。本稿では、会社として、個人として、今回の教訓を活かせるように編集部へ寄せられたコメント、そして当地でハリケーンを複数回経験された方々からいただいたアドバイス等を共有させていただきます。(編集部)

会員企業数社へのヒアリングを通して得たコメント

- ・ハリケーン等の災害時に、会社が従業員のために何をどこまで対応するか等、様々な状況を想定した危機管理のプロトコルが必要と痛感。
- ・7月中は幹部も多く休暇をとり不在で、ナショナルスタッフのみで決断を下すことは難しかった。意思決定を下すため、管理職は順番に休暇を取った方が良くもしい。
- ・非常時に従業員全員に一斉配信できる通信システム(例: [Everbridge](#))を導入しているため、それで安否確認を行った。
- ・停電等により避難をした場合の経費申請の規定をあらかじめ決めておいたので、助かった。他社はどのように対応されているのか情報がほしい。
- ・停電が続く従業員や家族のために社宅を開放した。
- ・ハリケーン上陸の前日に、当日は出勤せず在宅勤務とするよう、あらかじめ周知していた。
- ・自宅とオフィスの両方が停電し、且つ業務が必要となる場合は避難先のホテル代を会社負担とした。
- ・7/12-14の週末に、自宅がまだ停電している従業員とその家族のためにオフィスビルのワンフロアをCooling Centerとして開放し、充電したり軽食を食べることができるようにしていた。
- ・日本からの出張者が宿泊するホテルも停電したため、復電した駐在員が支援するなど対応した。
- ・人事システムアプリを用いた全社員向けの連絡システムを整えており、出勤停止、再開の連絡などに活用した。
- ・駐在員の安否確認は手分けして電話確認したが、一時不通となった地域もあった。何か良い仕組みがあれば取り入れたい。
- ・駐在員の住居は同じ地域でも停電の復旧に差があった。事前にホテルを手配するなど、停電が長引く場合に備えた対策を取る必要を感じた。
- ・会社への停電被害を抑えるため、事前に大型発電機を準備。
- ・ハリケーン上陸に備え、事前に連絡網を構築。停電も想定し、携帯のテキストで連絡を取り合うようにした。
- ・新生児がいる社員もいるため、自宅が停電した駐在員にはホテル避難を推奨。ホテル代は会社負担とした。しかし、多くのホテルは満室だった。

編集部へ個人から寄せられたコメント

- 当地での滞在年数が短い方は、やはり事前準備があまりできていなかったという結果であった。
- ・基本的な準備*に加え、小型発電機、非常時用ラジオやランタン、熱中症対策として乾電池で動く扇風機やスポーツドリンクも準備しておく役に立つ。
 - ・バスタブに水をためておいたので、断水してもトイレを流すことが出来て助かった。(ネコ砂を使うというオプションも有り。)
 - ・ペット同伴で避難することは難しい。次回は早めに同伴できるホテルを見つけておき、予約したい。
 - ・停電に備え、手動式でガレージドアを開ける練習をしておく。
 - ・情報ソースとなるアラートは[ReadyHarris](#)、気象予報は[AccuWeather](#)、コミュニティ内の情報交換ができるアプリ(例: [Nextdoor](#)、[WhatsApp](#) グループ)等を自分の居住地に合わせて選び、日ごろから使い慣れておくと便利。



在ヒューストン歴30年以上の方々に聞きました

Q1: カテゴリ-3以上のハリケーンが来る場合はどうする?

A1: 避難するか、留まるかを、進路や勢力を確認しながら早期に決断することが大切。家族に小さい子供や高齢者、病人等がいれば、ガソリン1タンクで行ける内陸の都市(例: Austin)に避難するオプションを検討する。上陸する前の段階で決めて動かないと、宿泊先が見つからなかったり、道中交通渋滞でガス欠を起こしてさらに危険な状況に陥るので、早めにプランを検討しておくように。

Q2: 自宅に留まる場合は、どんな準備をする?

A2: たとえ留まることを選んでも、最悪の場合に備えていつでも避難できる準備だけはしておいた方が賢明。居住地がMandatory Evacuation(強制避難)の対象になりやすい海に近い地域だったり、洪水で家屋浸水しやすいBayou(川)やReservoir(貯水池)に近い場合は要注意。(例: Houston-Galveston Area Councilの [Zone and Evacuation Route Map](#)、Harris Countyの [Flood Plain Map](#) 参照) 我が家は一軒家の持ち家なので、基本的な準備に追加して、小型発電機の設置、風害に備える準備(例: 窓にボードを貼り付ける)、車の1台はガソリン満タンの状態で近くの高層駐車場に移動させる。住居タイプにより準備も異なる。

Q3: 日本から赴任したばかりの方々へのアドバイスをぜひ。

A3: 情報ソースを確保しておくこと、また決断を下す時に必要な非常時の用語を英語で把握しておくこと。(例: [Flash Flood Watch vs. Warning](#)) また、通勤・通学路が冠水して通行止めになった際に、他のルートでも帰宅できるように日頃から練習しておくことは必須。

用語集*

- Power Outage:** 停電
- Shelter-in-Place:** 屋内退避
- Voluntary Evacuation:** 自主避難。
- Mandatory Evacuation:** (強制避難) との違いを知っておくこと。
- Landfall:** 上陸
- Curfew:** (市当局が発令する) 門限
- Derecho:** 直線的に進む暴風雨 (5/16に襲来した嵐)
- Hail Storm:** 雹(ひょう)の嵐。ゴルフボールサイズ以上の雹もあり得るので要注意。

* 基本的な準備や用語集については、商工会HPの[安全・危機管理情報ページ](#)や [Houston-Galveston Area Council Hurricane Preparedness and Evacuation Planning](#) をご参照ください。